



俳句ゆめクラブ会報

2022年11月22日

第 149 号

今日は出来過ぎ位の良い日で先生が最初の季語の説明で言われた小春日そのもの、薄い上着でも歩いてい

る内に邪魔に思える程の暖かい日であった。
大宮公園の池は十二年ぶりのかいぼり後で水が抜かれており、池底を乾かして来年春にはまた水を入れ浄化された姿を見せる由、水の無い池での吟行であったがそれはそれで珍しい体験であった。

梅田先生の句

冬あたたか初宮詣での子は眠り
小春空猿は素知らぬ貌をして
憂きことを忘るる银杏紅葉かな

梅田先生選

《特選》
小春日を食り歩く友とあて
冬紅葉かくも華麗に池に映え
黒山羊の耳の垂れゐて冬温し
透かし見る楓紅葉の眩しかり
小春日の空まつすぐに飛行機雲
一生の最後のごとく紅葉燃え
冬温し水抜きし池ただ静か
晴れ着なる親の忙しく七五三

老人のリュックが多き小春かな
石路の花彩る池や空青し
公園の松が見下ろす冬紅葉
落ち葉降る広くはげしく梢より
幸せな色極めたる石路の花
高空に溶け込む冬紅葉かな
青空に银杏黄葉のきらびやか

我が肩に落葉しぐれの絶え間無く
散紅葉青き空から落ちてくる
小春日の行啓記念碑輝ける
散り敷ける银杏黄葉や遊園地
冬紅葉一途な色となりけり



《入選》
その先の雀の色の落葉かな
陽を透かし燃ゆる紅葉や花のごと
公園のふわふわと落葉踏む
鳴く声の寂しくひびき寒鳥

浅見法子
八千代幸男
小林健一郎
瀬戸川公子
岩松忠子
鈴木幸恵
長澤輝子
小林健一郎

吉野利美子
鈴木幸恵
岡田時雄
八千代幸男
吉澤愛子
吉澤愛子
八千代幸男

小林健一郎
長澤輝子
瀬戸川愛子
岡田時雄
浅見法子

吉野利美子
鈴木幸恵
岩松忠子
吉野利美子

靴底に木の葉を踏める音のして
吟行や落葉しぐれのお出迎へ
切株に触れゆく落葉限りなく
落葉時雨気紛れな風散りにけり
胸に沁むグラデーシヨンの紅葉かな
木の上で見張れる鴉小春空

互選

黒山羊の耳の垂れゐて冬温し (6票) 小林健一郎
小春日の空にまつすぐ飛行機雲 (4票) 岩松忠子
冬あたたか初宮詣での子は眠り (4票) 梅田ひろし
落葉降る広くはげしく高さより (3票) 八千代幸男
我が肩に落葉しぐれの絶え間無し (5票) 小林健一郎
憂きことを忘るる银杏紅葉かな (4票) 梅田ひろし
冬紅葉一途な色となりけり (5票) 浅見法子

〔決定事項・連絡事項〕

・次回句会 12月13日(火)(当番:岡田、八千代)
句会前に食事会行うので県活食堂に11時半集合
兼題「年の暮」

・吉澤さんが事情により今回で退会、長い間のお付き合いを感謝。

・今回は11名出席(欠席:宮島)

(小林健一郎記)

(了)